



500人が参加

# トマトフェスタ2009

8月1日、大田区3会場で実施

市民が贈った家宝の種で



## 青森、岩手、新潟、静岡、兵庫、鳥取の6県から30種類、 家庭菜園トマトも大量お目見え

トマトフェスタも今年で5回目、ここ田園調布の市民の真夏のイベントとして定着してきました。今年では会場を大田区役所嶺町特別出張所の大集会室他3会場で行いました。



### 初めて出会うトマト・・・見て、触って、食べて・・・

いつの間にか市場から消えてしまった昔懐かしいトマト、甘さと生産効率だけを追求してしまったトマト、冬の水っぽいトマトなど、トマトの本来の野生や栄養などが切り捨てられ、画一的な味になり消費者はいらだっています。

そこに登場したのが、野生を取り戻し、家宝のように育てられてきた伝統トマトを作ってみようとする運動です。トマトに限らず野菜とは、遠路を運ばれるものではなく、石油の力を使って作るものでもありません。野菜とは「そこら辺」で「自分で栽培出来る」野の草です。頑張れば毎日欠かさず食べる野菜を楽しみながら自給出来るのです。まずトマトから、そして「昔ながらのトマトから」ということで、勉強会が始まりました。トマトフェスタは、先進的な消費者の野菜に懸ける思いをあつめたものです。

### トマトの種と苗を配る・・・すべての始まり

英国王立園芸協会の和田直久氏や、兵庫の文化農場の小野康裕氏の指導をいただき、トマト

の種と苗の選定を行いました。これを、区民のつてをたどって各地の農業経営者に配り、あわせて地元の大田区の園芸愛好家に配布しました。こうして30種類のトマトを育てました。今年、トマトの種苗を配ったところは、青森、岩手、秋田、山形、新潟、神奈川、静岡、山梨、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、山口、福岡の各府県の農家です。トマトフェスタには、この中から6県の皆様に出席して頂きました。

大田区では、五月に22種類、300本の苗を、希望者150人に頒布しました。ベランダで、玄関先で、屋上で、そして区民農園で、多種類のトマトが育っていきました。トマトフェスタには、「今朝採れたトマトだよ」、「毎日収穫しているよ」と採れたばかりのトマトをもって参加した方々が多数いました。田園調布で作り、育て、食べる・・・究極の産直が実現しました。

### 夏の疲れを癒すトマトを調理する、加工する

赤、白、黄色、緑、紫、黒等の色・・・大、中、小、極小・・・などのサイズ、丸、楕円、星形などの形、味の甘い～酸っぱい～淡泊など、千差万別ながら、いずれも捨てがたい、お宝のトマトを前にすれば、料理を作ってみようという人が出て当然です。

勉強会では、採れたトマトを前にして、色々な食べ方を工夫しようとする人たちで、料理講習会が出来ました。トマトフェスタでは、会場二階の調理室で、チャップリンおばさんこと藤崎里子さん(栄養士)を中心に料理講習会が営まれ、トマトのクイック料理を試供、にぎわいを見せました。

### なぐも原・結いの里のトマト達

トマトフェスタ第三会場のフウの木公園では、新潟県十日町市から来た結いの里の農家の皆さんが、田園調布から送られた種から育てた23種類のトマトを持って参加、その他にも四川キュウリ、なすび、トウモロコシ、ふき、さるなし、乾麺、そして魚沼コシヒカリなどご当地ならではの農産物を展示しました。物珍しさも手伝って、付近の住民がトマトが盛られたテントを訪れ、結いの里の村長さん達と熱い会話を交わしました。また設けられたキッズコーナー(こどもの広場)でのお絵かき、トマトの重さあてクイズなどに興ずる親子連れでにぎわいました。

### 田園調布のトマトの木と各地のトマトに驚嘆・展示室で

今年は、全国6カ所から送られてきたトマトと田園調布などで栽培されたトマトが並列して展示されました。例年、美しく展示されているトマト達に人びとの賞賛の声が上がっていますが、これはパッケージデザイナーでトマトフェスタのポランチアを毎年買って出ている永井久美子さんの作品です。人びとは驚嘆の目でその姿をカメラに収めていました。

トマトフェスタ展示会場の中央に張り出されている字幕のトマトのキャラクタは、デザイナーの村上多恵子さんの作品で、今年は会場の至る所に使わせて頂きました。会場は、壁という壁にトマトの栽培法、トマトの調理方法、トマトの生産風景などを写した写真と、植木鉢に入れられた様々なトマトが各所に配置され、更に各種のオブジェが加わり、各地域から贈られて陳列していたトマトを一層引き立てました。このトマトは、訪れた人々が協賛券と引き替えに持ち帰りました。

## ブラジル移民の作ったコーヒー

会場には、ブラジルで活躍する日系移民の下坂匡さん(72)の生産したコーヒーを、日本に産直輸入し、自家焙煎して販売している東京の繁田茶園の手で、挽きたてのコーヒーが販売されました。その香ばしい香りは同じく新潟の結いの里が持参したカサブランカと融合して、居心地の良いサロンの風景を作り、ひととき、来場者の憩いの空間になりました。

## 出展者の紹介

今年は大変な異常気象です。そのため、お米も含めていま、列島各地では農作物が生きるか死ぬかの戦いをしています。とてもトマトフェスタにはおつきあい出来ないといわれても仕方のない中、次の6地区からトマトを送って頂きました。

### 青森(黒石市)の「のぼるの果樹園」

十数種類のトマトを育成中で、ほとんど未熟な状態です。そこで、津軽の地で育っている別のトマト(桃太郎)を送って頂きました。

### 岩手(遠野市)の「遠野ファトリアグループ」

毎年、世界のトマトを生産、少しずつ広げています。今年も好評の内に出荷をしているようです。トマトフェスタには、田園調布から送った「品種不明の」タネで採れた400グラムの大玉の真っ赤なトマトが出展されました。名前が分からないので「名無しの権兵衛」からとった「権兵衛」(写真)としました。



### 新潟(十日町市)のなぐも原・結いの里

10人の農家で今年、23種のトマトに挑戦。8月1日現在は青いままで、皆様の手元には届けられませんが、これからはどんどん出てきます。

### 静岡(磐田市)のトマトの鈴木

カラフルトマトの草分け的な存在で若い経営者の鈴木章弘氏が魅力的な品種をいくつも手中にして、自ら販路を拡大しています。今後の発展が待たれる経営の1つです。

### 兵庫(宝塚市)のアグリネット宝塚

元農家リタイヤーしたサラリーマンが半分帰農して流通を作りつつ生産ネットワークを組む異色の

昔ながらのトマトの勉強会&創造農学研究会

大田区田園調布本町37-13 Tel03-3721-8046 Fax03-3721-8082

大田区社会教育関係団体

グループです。トマトフェスタには昨年からの協賛、昔ながらのトマトを大量に出展して注目されました。

## 鳥取県(琴浦町)のJA鳥取中央グループ

2005年来トマトフェスタに協賛、トマトフェスタ鳥取を例年開催するなど、地産地消も視野に入れた取り組みが注目される農協です。ここでは、なし、スイカ、ブドウ、砂丘らっきょ、そしてもちろんトマトの大産地で安定した技術に加え、農の伝統が豊かに花開く観光農村としても注目されています。

## 夜は50人で交流交歓会

新潟県の「結いの里」の地伝統野菜も大集合、雨宮さんの創作トマト料理で



トマトフェスタ第三会場の「ふうの木公園」で、23種類の世界のトマトを展示した新潟県の十日町の「結いの里」(臼井隆代表)のみなさんが、地元の選りすぐりの農産物をもって来ました。東京に住む出身者も入れて8人のメンバーが加わり、トマトフェスタに協賛した地元の東久自治会の正副会長ほか、トマトフェスタに協力した実行委員やボランティアの皆様、さらには創造農学研究会関連の皆様が混じり合っただけの交流・交歓パーティーが賑やかに行われました。

**トマトと友達になりましょう・・・色々な食べ方をしてみませんか**

**雨宮広和氏の手になるフルコース**

調理研究家として幅広く活躍中の地元在住の雨宮広和さん(食文化を楽しむ会・クラブプーリスト主宰)が、トマトフェスタの交流交歓会用のフルコースを作ってくださいました。

会食した50人の人々は、トマトの奥深さを味わいつつ、食と農の繋がり、都市と農村の交流などについて幅の広い意見を交換しました。

十日町市は中越地震で被害を受け、その復興に町を挙げて取り組んでいます。当地はまれに見る美しい自然と山村での暮らしや絹の道として往古に栄えた場所として人々をとらえて放さない魅力を持つ山村です。「結い」とは田植えの時に村人が一斉に出役して助け合うこと言います。今結いの里はこの結いの心を大切にして、美しい農村づくりに取り組んでいます。

**食の安心、安全と出張・道の駅構想**

高速道路で結ばれている農村のあちこちには「道の駅」という直売場があります。農家が「結い」のように力を出し合って農産物を自分で値を付けて売り、毎日毎日の収入を得る方法として大変良いビジネスとして発展しています。この方法は、野菜の産地を周辺にもつ大都市でも、成り立つのではないかと、様々な「市」が試みられています。そのための大切な条件は正真正銘の「顔の見える」関係を作り、安全安心を委ねることです。トマトフェスタでは、スーパーなどの店頭での消費者の要求とは違う満足を得る道があることを感じさせました。会場には、お隣の川崎市で、食の安全安心を目ざし、多摩川流域の野菜の食を知る活動に取り組む UZUMAKI という市民グループ [http://web-k.jp/uzumaki/uz\\_20090716kawasakisodachiyasaiichi.htm](http://web-k.jp/uzumaki/uz_20090716kawasakisodachiyasaiichi.htm) ともエールを交換しました。

## チャップリンおばさんこと藤崎里子さんの活動

毎年トマトフェスタに参加しているチャップリンおばさんこと藤崎里子さんは、栄養士としての学識と自分の闘病経験を踏まえた信念を結びつけて、トマトと深く研究し、「すごいぞケチャップ」というウェブサイトを立ちあげてトマトの食べ方を啓蒙しています。彼女によれば、トマトには底知れぬ力があり、のびのびとした未来がある、トマトは他の食材と合わせても味を自己主張しないために、例えばコーヒーの中に入れてもコーヒーの引き立て役になる食材であるそうです。今度のトマトフェスタでは、オートミールを使ったケチャップ料理をクイック料理として試供しました。

今次のトマトフェスタに参加しての藤崎さんの HP を紹介します。

<http://homepage2.nifty.com/t-catsup/2009tomatofesuta.html>

<http://homepage2.nifty.com/t-catsup/tomatoo-tomi-rusama-.html>

なお、藤崎さんは、9月2日放映のケチャップを特集したNHK 番組「ためしてがってん」に出演しますので、是非ご覧下さい。

## ボランティア、実行委員の皆様ありがとうございました。

今年も多数のボランティア、実行委員が応募され、立派なフェスタを営むことができました。昔ながらのトマトの勉強会はトマトフェスタ2009の実行委員会(6名)を作り、基本的な計画を立案しました。トマトフェスタは、全てトマトの勉強会の会員費により営まれ、寄付金や賛助金を排しております。このため、常に赤字となりますが、それでも得られる成果は「達成感、満足感」で、毎年ボランティアの力に頼った運営をしています。今年は、トマトの苗を育てた皆様、昨年来の実行委員の皆様、トマトフェスタのニュースを聞いてボランティアに応募して下さった皆様で約50人が、力仕事を引き受けて下さいました。これは大変の大きな力でした。皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

**結いの里に行きませんか？**

**グリーンツーリスを企画中**

昔ながらのトマトの勉強会では、田園調布発のトマトをたらふく食べ、

かつ持ち帰り、さらに美しい農村風景に接する「結いの里訪問ツアー」を  
計画しています。近く、計画書を発表します。

## 【トマトフェスタとは？】

懐かしのトマト、世界のトマトを一堂に展示するお祭り。2005年に創造農学研究会(since 1993)が始め2007年まで、大田区田園調布地域で実施。昨 2008 年は主催を昔ながらのトマトの勉強会(since2008 大田区社会教育関係団体)で鶯の木の東京高等学校で開催、地元を中心に550名の参加。